

# くらしの中の IPCC シンポジウム 2019 2019 11.21 Thu 気候変動



**気候変動に関する政府間パネル (IPCC) は**  
今年5月に各国の温室効果ガス算定のための『2019年方法論報告書』、  
8月に『土地関係特別報告書』、9月に『海洋・雪氷圏特別報告書』を公表し、  
現在は2021年から2022年に予定されている『第6次評価報告書』の公表にむけて大詰めを迎えています。  
本シンポジウムでは、これらの報告書が示す科学的知見、  
そして第6次評価報告書への展望について専門家に講演いただきます。  
さらに、パネルディスカッションには気候変動対策に積極的に取り組む企業からの登壇者を迎え、  
身近な生活に関わる影響を含め、気候変動に関わるさまざまな観点から議論を展開します。

## 基調講演

- 講演1 **IPCC第6次評価サイクルの最新情報**  
田辺 清人 / IPCC/TFI (インベントリータスクフォース) 共同議長
- 講演2 **土地関係特別報告書について**  
三枝 信子 / 国立環境研究所 地球環境研究センター センター長
- 講演3 **海洋・雪氷圏特別報告書について**  
石井 雅男 / 気象庁 気象研究所 気候・環境研究部 部長



## パネルディスカッション

ファシリテータ | 田辺 清人 / IPCC/TFI (インベントリータスクフォース) 共同議長

三枝 信子 / 国立環境研究所 地球環境研究センター センター長  
石井 雅男 / 気象庁 気象研究所 気候・環境研究部 部長

## パネリスト

浦嶋 裕子 / MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社 総合企画部サステナビリティ推進室 課長  
豊崎 宏 / 味の素株式会社 環境・安全・基盤マネジメント部 環境経営支援グループ長  
吉川 圭子 / 環境省 地球環境局 脱炭素化イノベーション研究調査室 室長  
藤本 敏文 / 気象庁 地球環境・海洋部 地球環境業務課 地球温暖化対策調整官

日時 2019年 **11月21日(木)** 13時30分～16時45分 (開場13時) 場所 **伊藤謝恩ホール** 伊藤国際学術研究センター地下2階 113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
アクセス 本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線)から徒歩8分 / 本郷三丁目駅(地下鉄大江戸線)から徒歩6分  
湯島駅または根津駅(地下鉄千代田線)から徒歩15分

主催 **環境省・気象庁** 後援 文部科学省、**地球ウォッチャーズ**、**気象友の会** 定員 400名 質問可能なライブ中継あり ▶ YouTube

## 講演者プロフィール

### 田辺 清人 IPCC/TFI(インベントリタスクフォース)共同議長

公益財団法人地球環境戦略研究機関 上席研究員。東京大学理学系大学院にて気象学専攻。日本の温室効果ガスインベントリ作成、IPCCやUNFCCCなどにおける国際的な活動に長年にわたり従事。IPCC第42回総会(2015年10月)でTFI共同議長に選出、現在に至る。

### 三枝 信子 国立環境研究所 地球環境研究センター センター長

東北大学大学院理学研究科博士課程修了(地球物理学専攻)。筑波大学生物科学系助手、産業技術総合研究所主任研究員等を経て、2008年から国立環境研究所に勤務。IPCCでは土地関係特別報告書第6章「砂漠化、土地の劣化、食料安全保障及び温室効果ガスフラックスの間でのインターリンケージ:シナジー、トレードオフ及び統合的な対応の選択肢」の代表執筆者を務めた。

### 石井 雅男 気象庁 気象研究所 気候・環境研究部 部長

長年にわたり海洋の物質循環の観測・研究に従事。世界気象機関やユネスコ政府間海洋学委員会などが後援する全球海洋観測システムの生物地球化学パネル共同議長。現在、IPCC WGI AR6の第5章「炭素・生物地球化学的循環及びフィードバック」の執筆にも携わる。

### 浦嶋 裕子 MS&ADインシチュアランスグループホールディングス株式会社 総合企画部サステナビリティ推進室 課長

銀行、民間シンクタンクを経て2008年に三井住友海上に入社。以来、環境・CSR取り組みを担当し、現在は持株会社も兼務。2018年度からは中期経営計画「Vision 2021」で掲げた「レジリエントでサステナブルな社会」に向けて、グループをあげSDGsを道しるべとしたCSV取り組みの推進に取り組む。

### 豊崎 宏 味の素株式会社 環境・安全・基盤マネジメント部 環境経営支援グループ長

1990年味の素入社。研究所、国内工場の技術開発部門、企画部門などを担当。2008年より3年間インドネシア味の素技術センター長を務めた後、研究所管理部門等を経て、2019年7月から現職。環境経営に関する中長期計画立案や施策提案を担当。

### 吉川 圭子 環境省 地球環境局 脱炭素化イノベーション研究調査室 室長

1995年厚生省生活衛生局水道環境部産業廃棄物対策室入省。以後、廃棄物対策、水道分野の国際協力、吸収源インベントリ、農業環境管理、浄化槽推進、大気生活環境対策等を担当。2019年7月から現職。第50回・第51回IPCC総会の対応のほか、地球観測、気候変動影響評価等を推進している。

### 藤本 敏文 気象庁 地球環境・海洋部 地球環境業務課 地球温暖化対策調整官

1986年気象大学卒業。気象庁気象研究所でオゾン層、エアロゾル研究、気象庁本庁でオゾン層、温室効果ガスの観測・監視業務に携わる。2008年から国土交通省に転出、運輸分野の地球温暖化対策に携った後、気象庁本庁、地方気象台勤務を経て、2017年より現職。気候変動適応をはじめ気象庁の地球温暖化対策関連の業務を推進している。

## IPCCシンポジウム参加申込

参加費無料

事前申込制

質問可能なライブ中継あり▶ YouTube  
[https://youtu.be/zx3X\\_D50H-4](https://youtu.be/zx3X_D50H-4)



11月21日(木) 伊藤謝恩ホール

申込・問合せ先

(シンポジウム事務局)地球・人間環境フォーラム  
TEL:03-5825-9735 / FAX:03-5825-9737 / Eメール:climate@gef.or.jp

申込締切

2019年11月12日(火)必着

申込用QRコードまたは、電話/FAX/電子メールにて受付

定員

400名

シンポジウムへのご参加には申込QRコード(推奨)からまたはE-mailか電話、FAXでの事前申込みが必要になります。

※なお、マスコミ関係の方は、必ず事前に上記申込み先まで取材登録をお願いいたします。 ※参加募集は期限内であっても定員に達し次第締め切らせて頂きます。ご了承ください。

紙資源節約のため、資料はウェブサイト提供。▶ <https://www.gef.or.jp/news/event/191121ipccsympo/>



### 電話、FAX、Eメールでの参加申込

件名に「IPCCシンポジウム参加申込」と明記の上、

- ①氏名(ふりがな)
- ②E-mailアドレスまたはFAX番号
- ③電話番号

TEL:03-5825-9735

FAX:03-5825-9737

Eメール:climate@gef.or.jp

- FAX申込みの場合、送信済み用紙をご持参ください。
- Eメール送信の際は、開封確認通知をご利用ください。
- ご記入いただきました個人情報は、今後、同種のご案内に限って活用させていただくことがあります。

個人情報の取り扱いについて(一般財団法人地球・人間環境フォーラム)

お預かりした個人情報は、本シンポジウムの傍聴受付のために利用させていただきます。お預かりした個人情報を集計作業等のために他に預託することはございません。お預かりした個人情報は、一般財団法人地球・人間環境フォーラムの「個人情報の取り扱いについて」(<https://www.gef.or.jp/privacy/>)に従って適切に取り扱います。お預かりした個人情報の削除等のお申し出、その他のお問い合わせにつきましては、上記の申込先までご連絡ください。

### 申込用QRコードでの参加申込

右のQRコードまたは

<https://business.form-mailer.jp/fms/828d3101107472>  
から申込フォームにアクセスして、必須項目を入力してください。

